

nicochanism

ニコチャニズム

重い病気や障がいがある人の
こころゆたかな毎日のために

09
2022
08.01

認定NPO法人
ニコちゃんの会



ニコちゃんの会 検索

ホームページ
<http://www.nicochan.jp>



@nicochanism



@nicochanism



@nicochannokai



@nicochannokai



Syncable
寄付用

認定NPO法人ニコちゃんの会

〒 814-0153 福岡市城南区樋井川 6-37-8

☎ 092-863-5903

✉ 092-862-0597

✉ info@nicochan.jp

nicochanism

No.09

2022年8月1日発行

発行・デザイン 認定NPO法人ニコちゃんの会



NPO法人ニコちゃんの会ができる

的なご支援やにこぴあ(ボランティ

からもうすぐ10年を迎えます。今年

ア)さんとしての活動への参加は本

は、活動の意義や目的を見直す充電

期間として、日常を支援するための

福祉サービス、拠点を創設するため

のケアコミュニティハウスプロジェクト

などの活動を行った一年間で

した。この一年でコロナ禍の状況は、

少しずつ変わっているように思いま

すが、まだまだ思うように活動でき

ないもどかしさを感じる今日この

頃です。ただ、この一年があつたこと

で、スタッフみんなでゆっくりと話

し合う時間を持つことができま

した。これから活動を更に有意義な

ものにしていくための充電ができま

した。そしてケアコミュニティハウス

プロジェクトも進展することができ

ました。

ニコちゃんの会は、2012年に設立し、2014年には認定NPO法人となり、あつという間の10年だったように思います。皆様からの継続



認定NPO法人ニコちゃんの会
代表理事 森山淳子

●ニコちゃんの会との関係

長津：まず最初のテーマですが、『皆さんとニコちゃんの会とのそもそものかかわり』について伺いたいんですが…まずは東さんのお話を聞かせてください。

東：私は前身のニコちゃん通信の会を立ち上げるきっかけになったにっこ園で、涼子（森山家の娘）とうちの宗弘（東家の息子）が同級生で、私たちはそこで出会った親同士、いわゆるママ友だったんです。ニコちゃん通信の会は、最初の通園のグループのママ友6人で「自分たちでも発信しているこう！」といつて始めた通信誌だったんです。

長津：ニコちゃん通信の会を始めたときの東さんのモチベーションやその時の思い出は？

東：（にこにこ園には）幼い障がいのある子どもが通園してたんですけど、お集まり会と称してそのグループの人たちの家に行って、お昼を食べな

がらいろいろな話をしてたんですよ。それがすごく楽しくて、癒されて、元気も出るような時間だったんですね。

が、その中で何か自分たちから発信するというアイデアが、仲間の人から出てきました。そして、ニコちゃん通信という通信誌が始まったんです。

長津：2歳から高校生になる18歳まで、2009年頃まで続いたんですね。

東：はい。最初は1年に3回ぐらい出してたんですけど、だんだん減って1年に1回になりました。メンバーはどんどん増えてきて、スタッフとして動いてくれるお母さんたちが20人近くいた時もありました。会員さんは1番多い時は全国で800人ぐらい。テレビとか新聞とか、いろんなメディアに取り上げてもらったりもしていました。

長津：福岡だけではないんですね？ 東：はい、全国に郵送していたので。『障害児』の親つてけっこうイイじゃん』という本を出して、それをきっかけにいろんな人が知ってくれて。親だけじゃなくて、学校の先生や療育の先生、福祉や行政の方にも見ていたら、そんな人たちで100人くらいの親睦会をしました。親睦会という名の飲み会ですね（笑）。大イベントですよ。

長津：宗弘さんを育していく中でニコちゃん通信の会があつて良かつたと思う事はありますか？ 東：良かったと思うのは、人同士、お母さん同士の繋がりができた事ですよね。仲間もあり、友達でもある。ずっと続く友達ができたみたい

昔馴染みの人たちと … 02

充電期間（2021年度）にやったこと … 08

前年度の活動一覧 -2021年度（第10期）- … 13

ご支援のお願い … 18



talk session

昔馴染みの人たちと

talk session

認定NPO法人ニコちゃんの会は10年目、ニコちゃん（ズム）は9巻目になりました。

今回の座談会は、昔からお付き合いのある方に集まつてもらい、彼らから見た、障がいがある方を取り巻く社会の変化や私たちの活動について話してもらいました。

長津：ニコちゃん通信の会を始めたときの東さんのモチベーションやその時の思い出は？

東：（にこにこ園には）幼い障がいのある子どもが通園してたんですけど、お集まり会と称してそのグループの人たちの家に行って、お昼を食べながらいろいろな話をしてたんですよ。それがすごく楽しくて、癒されて、元気も出るような時間だったんですね。

が、その中で何か自分たちから発信するというアイデアが、仲間の人から出てきました。そして、ニコちゃん通信という通信誌が始ま



森山淳子

認定NPO法人ニコちゃんの会代表理事。重い障がいがある子どもを亡くした後、ボランティア活動を経てニコちゃんの会を立ち上げる。



長津結一郎

九州大学大学院芸術工学研究院准教授。アーツ・マネジメント、文化政策学、芸術社会学などをベースとし、障がいがある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行う。



寺澤健二郎

医療法人寺澤病院副院長。小児神経科医。



東容子

ニコちゃん通信の会創設時のメンバー。介護の制度が無い頃から子育てをし、息子の宗弘さんは現在30代。

てていると、どうしても社会との隔絶のようなを感じるんです。療育施設みたいな決まった場所には行くけど、地域とかは別の空間にいるような感覚があるんです。でも、「ニコちゃん通信の会の活動を通して、外との繋がりが広がったという感じかな。ニコちゃん通信の会も、親同士やいろんな方を招いて座談会をして通信誌に載せていました。

森山：学習会もやったよね。

東：学習会はいろんな先生に来ていただいて。子育てにつながる情報とか、学びの場みたいなものをつくったりしていたよね。シンポジウムとか、真面目なこともやっていました。

長津：通信誌を作っていただけではないんですね。

東：はい、いろんなことをしていまして。『らいふ』という、電話帳みたいな分厚い情報誌を作ったりしました。昔はインターネットがなかったから、いわゆる行政が作る『福祉のしおり』みたいなものじゃない、使ってみた意見など生の情報、当事者の声を載せた情報誌を作ったんです。

森山：『らいふ』は役所でも病院でも使ってくれるくらい（情報が豊富）だったよね。

東：そう、そう。それぐらい、いろんな体験だったと思いますよ。おうちじや絶対できなかつただろうし。

寺澤：親御さんたちは障がいがある子どもさんのケアを心配してイベントに来られるけど、お子さんについては、案外何も起こらないんですね。大人、親の方が…（笑）。

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非日常的ななかかわりから日常まで知ってくれているからこそ、広い視

いい体験だったと思いますよ。おうちじや絶対できなかつただろうし。

寺澤：親御さんたちは障がいがある子どもさんのケアを心配してイベントに来られるけど、お子さんについては、案外何も起こらないんですね。大人、親の方が…（笑）。

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非日常的ななかかわりから日常まで知ってくれているからこそ、広い視

長津：通信誌を作っていただけではないんですね。

東：はい、いろんなことをしていまして。『らいふ』という、電話帳みたいな分厚い情報誌を作ったりしました。昔はインターネットがなかったから、いわゆる行政が作る『福祉のしおり』みたいなものじゃない、使ってみた意見など生の情報、当事者の声を載せた情報誌を作ったんです。

森山：『らいふ』は役所でも病院でも使ってくれるくらい（情報が豊富）だったよね。

東：そう、そう。それぐらい、いろんな体験だったと思いますよ。おうちじや絶対できなかつただろうし。

寺澤：親御さんたちは障がいがある子どもさんのケアを心配してイベントに来られるけど、お子さんについては、案外何も起こらないんですね。大人、親の方が…（笑）。

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

日常的ななかかわりから日常まで知ってくれているからこそ、広い視

長津：通信誌を作っていただけではないんですね。

東：はい、いろんなことをしていまして。『らいふ』という、電話帳みたいな分厚い情報誌を作ったりしました。昔はインターネットがなかったから、いわゆる行政が作る『福祉のしおり』みたいなものじゃない、使ってみた意見など生の情報、当事者の声を載せた情報誌を作ったんです。

森山：『らいふ』は役所でも病院でも使ってくれるくらい（情報が豊富）だったよね。

東：そう、そう。それぐらい、いろんな体験だったと思いますよ。おうちじや絶対できなかつただろうし。

寺澤：親御さんたちは障がいがある子どもさんのケアを心配してイベントに来られるけど、お子さんについては、案外何も起こらないんですね。大人、親の方が…（笑）。

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

日常的ななかかわりから日常まで知てくれるからこそ、広い視

長津：通信誌を作っていただけではないんですね。

東：はい、いろんなことをしていまして。『らいふ』という、電話帳みたいな分厚い情報誌を作ったりしました。昔はインターネットがなかったから、いわゆる行政が作る『福祉のしおり』みたいなものじゃない、使ってみた意見など生の情報、当事者の声を載せた情報誌を作ったんです。

森山：『らいふ』は役所でも病院でも使ってくれるくらい（情報が豊富）だったよね。

東：そう、そう。それぐらい、いろんな体験だったと思いますよ。おうちじや絶対できなかつただろうし。

寺澤：親御さんたちは障がいがある子どもさんのケアを心配してイベントに来られるけど、お子さんについては、案外何も起こらないんですね。大人、親の方が…（笑）。

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

長津：でも、それは淳子（森山）がやっている…

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

長津：でも、それは淳子（森山）がやっている…

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

長津：でも、それは淳子（森山）がやっている…

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

●あなたから見たニコちゃんの会

長津：2つ目のテーマは『自分から見たニコちゃんの会』です。NPO法人ニコちゃんの会は10年目。その前からの関係も考えると、皆さんのかわり方も変わつていったんじやないかなあと思います。

東：じゃあ、私から。うちの息子のところにニコちゃんの会のスタッフさんがヘルパーさんとして来てくださって、暮らしを支えてもらつて、暮らしを支えるだけじゃなくて息子とのかかわりを作つてくれてるんです。ずっと声をかけて会話をしてくれてるんですけど、そのちっちゃな反応だけ、それを「こんな風に返事してくれた！」って言ってくれるのがニコちゃんのスタッフ。「そうなのかなあ？」って思うこともあるけど（笑）、「そう言つたことにしましょ

たら一緒にご飯食べに行こうよ！」って言われて。それから（ニコちゃん）一緒に仕事をさせてもらつて、という感じです。

寺澤：全然覚えてない。

森山：先生、覚えてないと!? すごく

ちろん、ニコちゃん通信の人たちも参加してくれました。それに健二郎先生（＝寺澤先生）も家族を連れて参加してくれて。ドクターバッグも持つてきてね。だからこそでてきた企画！

長津：ドクターとしてというよりとか。トイレが使える、とか。サッカースタジアムに行ってみて、実際に障がいがある人達はどうなんだろうとか。

長津：寺澤先生は『らいふ』をお読みになつたことは？

寺澤：あります。更新できればよかったです。

東：そなんですか。

寺澤：うちの病院の作業療法士からかな。森山さんのお子さんとかをずっと見てたスタッフからこのお母さんたちの話を聞いたんですよ。その繋がりでお誘いを受けて、かかわるようになったよ。ニコちゃんでよくツアーや組んでたね。

東：キャンプとか、スキーとか！

長津：ああ、『遊び助つ人企画』ですね。

寺澤：（笑）。

東：でも、それは淳子（森山）がやっている…

森山：（笑）。だって、解放されるんだもん。午前中は子どもたちと離れて、大人は大人、子どもは子どもで遊ぶようにしてたから。私は健二郎先生が自分の子どもたちを連れてきてくれたのが印象的だったし、とてもいいことだなあとと思ってたな。

東：先生、子どもたちと一緒に遊んでたでしょ？

寺澤：そうじゃないともつたいないから。

森山：先生、満喫してくれてましたよね。またぜひ行きたいですね。スキーとか。その時は先生もぜひ来てくださいね。

寺澤：今はこっちが怪我をしてしまったんじゃないかな（笑）。

長津：寺澤先生とニコちゃんの会は、日常的な医療面でのかかわりもあるんですか？

森山：めちゃくちありますよ!! 非

ホームヘルパー。お宅を訪問し、入浴、排せつ、食事などの日常生活の支援をする福祉サービス

す。この前、淳子とシェアハウスについて、「今ある制度をフル活用して

そういう試みができないか?」って話をしてたんです。親と一緒にいる生活からあまりギャップがない状態で移行できればいいなと。さつき寺澤先生の話にもあったけど、普段と違う状況に順応するのは難しいので段階的に移行できたらいいなと思うんです。それを叶えようとしているところがすごいでしょ。スタッフの方が大変だと思うけど(笑)。

長津:それってお子さんの成長によるライフステージの変化とともに課題が変わっていくことです。最初は地下鉄の乗り方からトヨレの場所がどこか、というところからやってきて…、歴史を感じます。

東:私が暮らしの中で一番大変なのは、息子が寝てから朝を迎えるまでの時間。そこが一番、難易度が高い。なかなか寝なかったり、うちの息子だけいれんが頻発するとか。そういう時間帯は大体家族でやっているんです。そこからの自立は、今の選択肢は、ショートステイしかない。看護師さんが夜も看てくれるショートステイにお願いするしかな

医療ケアや介護を受けられる施設へ数日間宿泊して、生活、療養の支援を受けるサービス。

い。

寺澤:シェアハウスについて、今は制度があるの? 森山:ないんです。例えば、一軒家を立てて、3つ部屋があつたらそれを部屋に入れる

けれど、ヘルパーさんはそれぞれ違うし、通所施設もそれ好きなところを選択できるイメージ。

寺澤:重度障がいの人に向けたもの?

森山:そうそう。私たちがイメージしているシェアハウスは、運営しやすさに合わせた形じやなくして、そこに住む人を中心と考えたもの。私が生きているうちに叶えた

自宅から施設に日帰りで通い、日中の医療ケアや介護等を受けられる場所の総称。生活介護、作業所等、サービスの種類は様々。

した事業所さんは増えると思うんです。私たちがかわることができるのはほんの一握りの人だけだからね。

長津:今日の話を聞いて、「二コちゃんの会のスタッフの人たちは障がいがある子の家族たちと、『表現すること』に関心がある若手中堅スタッフがいる、そういうバランスでやっているのがとても変わっているなと思って。福祉施設でそういう人たちが体制を占めるところは珍しいし、二コちゃんのスタッフの人たちの“らしさ”が大事にされているなと思いました。僕の専門は芸術なので演劇公演の部分から二コちゃんを見ながら、そこで、リアルなケアの現場やスタッフの人たちとの日々とか“らしさ”を守っていくことを続けていく

長津:寺澤先生は、どうですか? 寺澤:やったほうがいいことに対しても金銭的な裏付けがつくようになつていかないといけないですね。議員さんにお願いするとか、そっちの方もやっていかないと。お金がついてこないことは続けられないですよね。

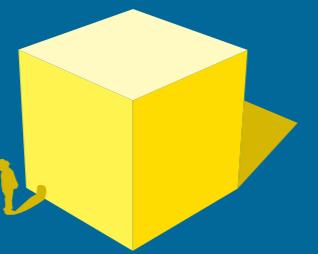
森山:重度の障がいがある人たちの制度にはまだまだ改善点があると思います。きちんと制度が整えば、医療的ケアがある人たちを対象と

日常的に埋め込まれてるというのが二コちゃんの会の活動なんだなと、芸術の現場以外を知つてそう見えるなと思って。舞台の上でスポーツトライアトロンを浴びて…っていうのも素晴らしい経験なんですが、二コちゃんの会が価値を置く芸術はそういう所だけじゃなくて、日常の些細な「お風呂上りに」この音楽より、この音楽の方が好きかなあ?」というところにあるんだろうなと。

そういう所を今後も大事にされるとよいなと思います。それと、そういう感じの事をされている事業所さんとの横の繋がりが広がっていく

といなと思いました。他にもこんな人たちがいる事業所がいくつもあるし、そんな人たちがつながったらいななど…、もしかしたらそれは僕の仕事かもしれません(笑)。また自分の仕事を増やしてしまうので、これは書かないでくださいね。

皆:(笑)



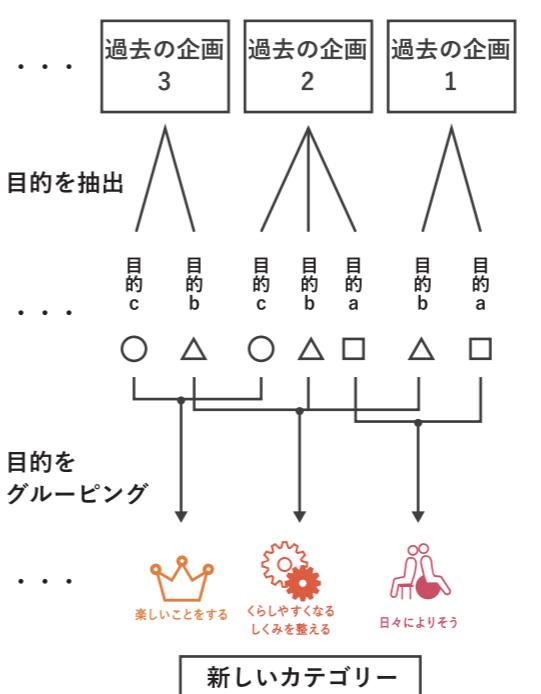
充電期間（2021年度）にやったこと

2021年度は、コロナ禍において思い通りの活動ができないこともあり、充電期間として活動を縮小して、団体内の様々な整備を進めました。

① 「何のための活動か」を整理

② ケアコミュニティハウスプロジェクト(拠点づくり)

「何のための活動か」を整理



この10年、様々な活動や企画を実施してきました。今回の充電期間を使って、団体の理念を紐解いたうえで、過去の活動を振り返り、なにを指していたのかを整理しました。そして、これまで表していた「こころゆたか」を実現していくための5本の活動内容を、活動の目的(ミッション)を軸にしてリニューアルしました。一つ一つの活動にどのような願いや社会的価値を持たせていくのか、団体内外に理解しやすく、また伝わりやすくなるように努めています。



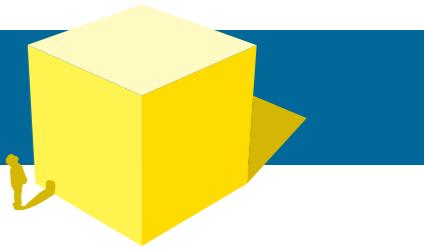
2022年4月3日
理念を考える会

何を目指して活動をしているかを再認識するため、理念やこれまでの活動をスタッフと振り返りました。活動が広がっている中で、これまでの活動とその意義を確認し、団体内の認識を共有することも大事なことだと感じています。

「何のためにやるか」で分類

当団体は、多様な活動を行っています。そこで、これまでに実施した企画について、「何のための活動か」を話し合い、「何のための活動か」を抽出し、6つのカテゴリーにまとめました。ひとつの企画が複数のカテゴリーにまたがることがあるため、下記のように、表せるようにしました。





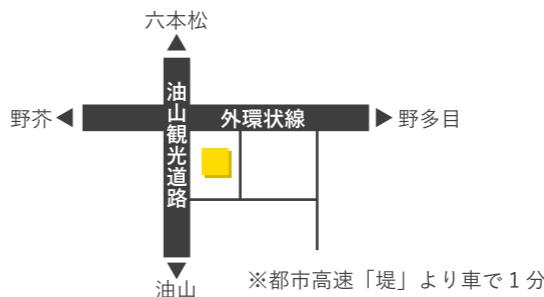
ケアコミュニティハウスプロジェクト

2021年春に建設地が決定し、ケアコミュニティハウスプロジェクトとしての活動が大きな一步を踏み出しました。現在は建設の準備を進めています。オープンは2023年4月を予定しています。

ここでは、どんなに重い病気や障害があつてもその人らしくこころ豊かに人生を生き抜くことを叶えるため、人が集い、様々な活動が行われます。

そのためには、いろいろな人のかかりと地域や行政の理解が必要です。地域の人も、遠くの人も、障がいの有無にかかわらず、多くの人が気軽に立ち寄れる場となるようになります。

- ①開所予定日 2023年4月
- ②建設予定地 福岡市城南区堤2丁目



外観イメージ

これまでのケアコミュニティハウスプロジェクト

2015 アッタライナ workshop

どんな場所があったらいいかをいろんな人と考えるワークショップです。



内観イメージ

2015 イッタモンガチ展

障がいの有無にかかわらず一緒に楽しめる場を作る実験で、クリスマスイベントを開催。



2016 ケアコミュニティハウスプロジェクト展ハレとケ

私たちが考える拠点のコンセプトを展示しました。

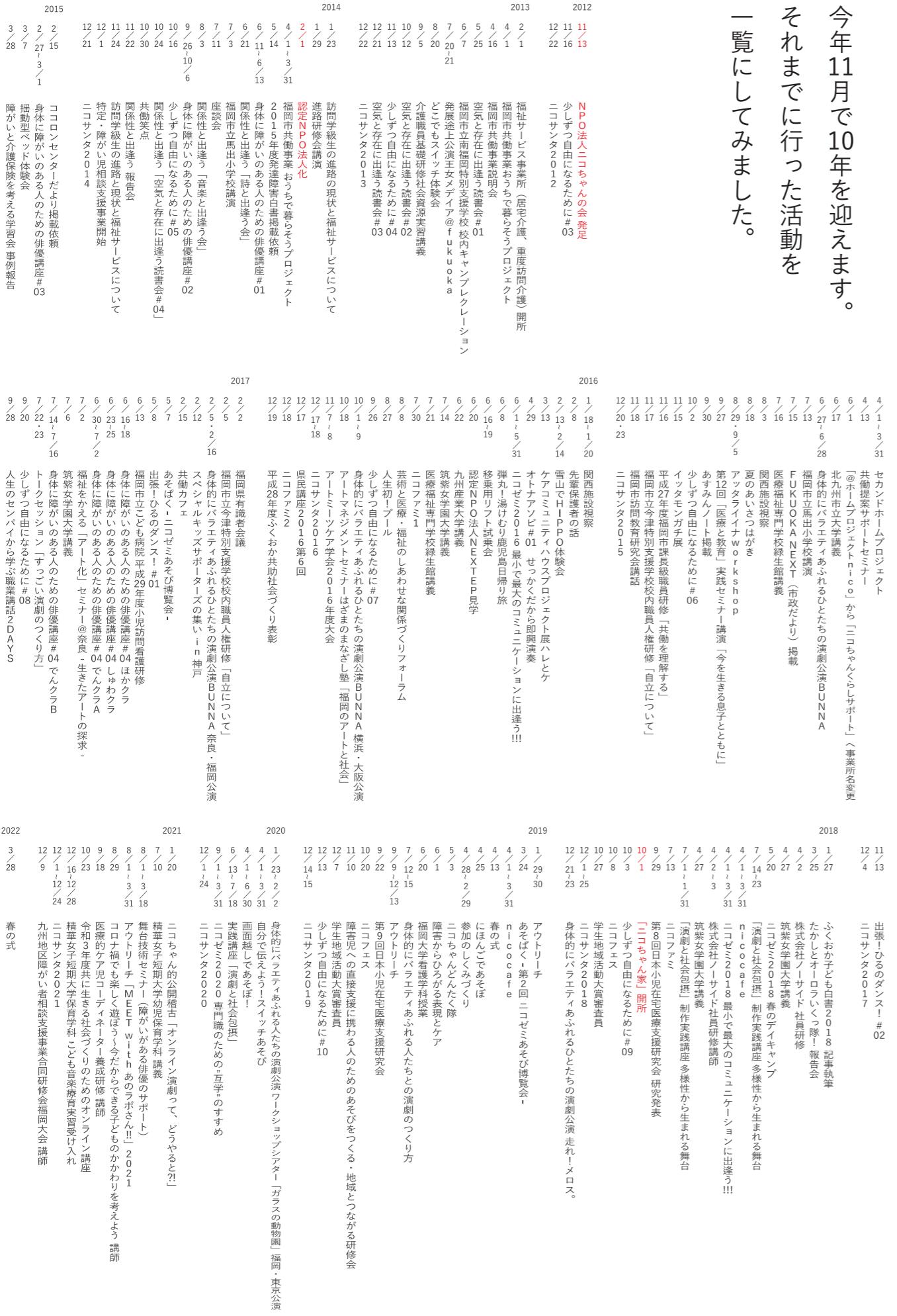


2016 ママたちが語るこんな場所がアッタライナ。

障がいがある子の親の座談会で、建物に対するニーズを聞きました。



今年11月で10年を迎えます。
それまでに行つた活動を一覧にしてみました。



前年度の活動一覧

2021年度（第10期）

2021/7/10

精華女子短期大学幼児保育学科 講義



団体の経験を
社会に発信する



新型コロナの影響で学生の皆さん実習や施設見学の機会が少なくなっている、と大学の先生からご相談があり、講義と施設見学をオンラインで実施しました。福祉サービスの中における保育の役割や障がいのある子どもたちとのかかわりについて話しました。

対象：幼児保育学科2年生11名
主催：精華女子短期大学幼児保育学科

2021/8/1 ~ 2022/3/18

舞台技術セミナー（障がいがある俳優のサポート）



共にとりくむ
機会をつくる



楽しいことをする



団体の経験を
社会に発信する



北九州芸術劇場 × 九州大学大学院芸術工学研究院 × ヒビノ株式会社による共同企画で“拠点間を繋いだ実演パフォーマンス”を題材に、北九州市と福岡市をITネットワークでつなぎ、離れた場所からのデモンストレーションが行われました。

この企画において、私たちは俳優の身体的なフォローを実施。『身体的にバラエティあふれる人たちの演劇公演』などにも出演した身体に障がいがある俳優に出演オファーをいただき、この作品の稽古と舞台裏のサポートを行いました。

稽古開始：2021年8月～（月2～3回程度）
本番：2022年3月18日

オンラインで行う稽古は相手を肌で感じにくいため、不安と疲労が残ります。さらにコロナ対策もあり…。本番で初めて対面して舞台に立った時、俳優たちも私も興奮しました。やはり顔を合わせて作るのが舞台の醍醐味だと改めて思いました。

担当者：井上直己

共同主催：(公財)北九州市芸術文化振興財團、九州大学大学院芸術工学研究院附属社会包摂デザイン・イニシアティブ、ヒビノ株式会社
協力：香川県民ホール指定管理者、あなぶき文化振興コンソーシアム
共催：北九州市
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会

2021 7/10	精華女子短期大学幼児保育学科 講義 [keywords] 精華女子短期大学幼児保育学科
8/1 ~3/18	舞台技術セミナー（障がいがある俳優のサポート） [keywords] (公財)北九州市芸術文化振興財團 / ヒビノ株式会社 / 門限ズ 九州大学大学院芸術工学研究院附属社会包摂デザイン・イニシアティブ
8/1 ~3/31	MEET with あのラボさん!! 2021 [keywords] 福岡市文化芸術振興財團 / anno lab
8/29	コロナ禍でも楽しく遊ぼう～今だからできる子どものかかわりを考えよう 講師 [keywords] 福岡市心身障がい福祉センター / 日本医療保育学会九州沖縄ブロック研修委員
9/18	医療的ケア児等コーディネーター養成研修 講師 [keywords] 福岡市障がい者基幹相談支援センター
10/23	令和3年度共に生きる社会づくりのためのオンライン講座 登壇 [keywords] 特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター
12/16 ~12/28	精華女子短期大学保育学科 こども音楽療育実習受け入れ [keywords] 精華女子短期大学幼児保育学科 / 保育実習
12/1 ~12/24	ニコサンタ [keywords] クリスマス
12/9	令和3年度九州地区障がい者相談支援事業合同研修会福岡大会 講師 [keywords] 九州地区障がい者相談支援事業合同研修会実行委員会
2022 3/28	春の式 [keywords] 卒園式 / 入学式
通年	福祉サービス（訪問、通所、相談支援） [keywords] 居宅介護 / 重度訪問介護 / 移動支援 / 特定相談支援 / 障がい児相談支援 居宅訪問型児童発達支援 / 児童発達支援 / 放課後等デイサービス / 生活介護
通年	nicocafe（新型コロナの影響により休止中） [keywords] 福岡大学病院 / ファミリーメンタルサポート

2021/10/23

令和3年度共に生きる社会づくりのためのオンライン講座 登壇

団体の経験を
社会に発信する

全8回あるうちの第3回目に、「地域生活自立支援」というテーマに登壇しました。演劇創作活動内で、長い時間をかけて障がいがある俳優たちが、一人の人間として、俳優として自立していく様に焦点をあてて話をしました。

対象：受講者
主催：(特非) よこはま地域福祉研究センター

2021/12/16~12/28

精華女子短期大学保育学科 こども音楽療育実習受け入れ



出会いの機会をつくる



「ニコちゃん家」にて精華女子短期大学の幼稚保育学科2年生の3名を実習生として受け入れました。7月にオンラインでの施設見学をしており、その延長として感染対策を徹底した上で、実習生の受け入れをすることとなりました。

対象：実習生3名
主催：精華女子短期大学幼稚保育学科

2021/8/29

コロナ禍でも楽しく遊ぼう～今だからできる子どものかかわりを考えよう 講師

団体の経験を
社会に発信する

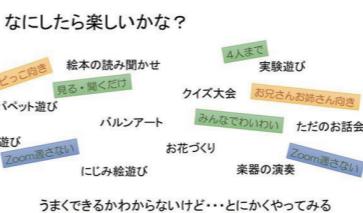
病院や療育施設で子どもたちとかかわる保育士、看護師、臨床心理士などが参加する学会で、コロナ禍でもできる子どもとのかかわり方について実践報告も含めて講師を務めました。

子どもたちの発育にとって欠かせない集団での遊びが難しい今どういったかかわり方があるのか、ひとつの事例提供として、ニコちゃんの会がコロナ以前に行ってきたこと、コロナ以後に実践したことを紹介しました。

研修後のアンケート（一部抜粋）

- ・それぞれの施設での取り組みを知る機会になり、またコロナ禍で苦悩していることなど悩みも共有できて精神的にも自分1人ではないと癒されました。参加できてよかったです。
- ・時間が足りないくらい話をすすることができました。内容もですが、保育士同士で話ができ、相談できる場があることの大切さをとても感じました。

対象：研修受講者（保育士、看護師、臨床心理士など）26名
主催：日本医療保育学会九州・沖縄ブロック



2021/12/9

令和3年度九州地区障がい者相談支援事業合同研修会福岡大会 講師

団体の経験を
社会に発信する

相談支援という福祉サービスに携わる方を対象とした研修の講師を務めました。障がいがある本人やその家族、彼らを取り巻く様々な組織の繋がりの大切さをテーマに話をさせていただきました。



対象：研修受講者
主催：九州地区障がい者相談支援事業合同研修会実行委員会

2021/12/1~12/24

ニコサンタ

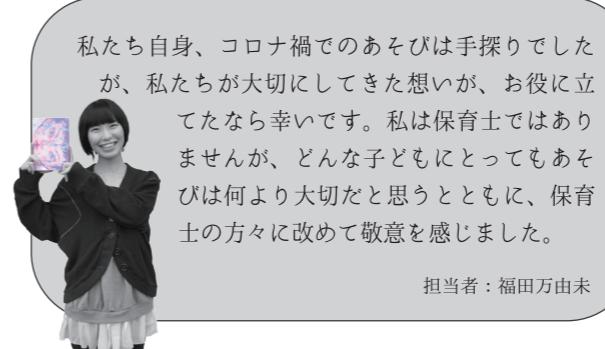


楽しいことをする



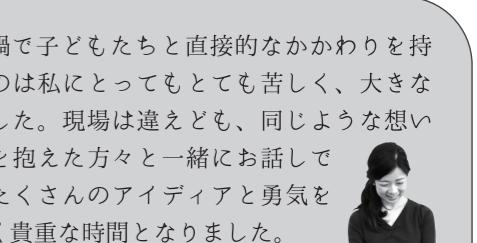
コロナ禍のため昨年に続き、少人数でお宅訪問するクリスマスイベントとなりました。次は大勢で騒がしく突撃訪問するニコサンタができたらと思っています。

対象：法人でかかわりがある方70家庭
主催：認定NPO法人ニコちゃんの会



私たち自身、コロナ禍でのあそびは手探りでしたが、私たちが大切にしてきた想いが、お役に立てたなら幸いです。私は保育士ではありませんが、どんな子どもにあってもあそびは何より大切だと思うとともに、保育士の方々に改めて敬意を感じました。

担当者：福田万由未



コロナ禍で子どもたちと直接的ななかかわりを持てないのは私にとってもとても苦しく、大きな制約でした。現場は違えども、同じような想いと悩みを抱えた方々と一緒にお話してきて、たくさんのアイディアと勇気をいただく貴重な時間となりました。

担当者：漆山阿弥

2022/3/28

春の式



楽しいことをする



卒業・入学という節目でなくとも、1年間みんな頑張ったねという想いを込めて、春を祝うイベントです。今年は小学生になる子が3名おり、卒園証書をお渡ししました。

対象：ニコちゃん家でかかわりがある方12名
主催：認定NPO法人ニコちゃんの会

医療的ケア児等コーディネーター養成研修 講師

団体の経験を
社会に発信する

医療的ケア児等コーディネーター養成研修は福祉サービスの相談支援の事業に関する研修です。医療的ケアがある人についての知識を深め、相談支援においてどのようなフォローが必要であるかを学びます。今回はNICUからの退院支援の取り組み（ニコカフェ）について話をしました。



本人家族の想いとライフステージにおける支援について
—NICU入院時から始める在宅移行支援の取り組みの中から—
2021.9.18 10:05~11:20
福岡市障がい者基幹相談支援センター

対象：研修受講者（医療機関、訪問看護ステーション、相談支援事業所、行政など）定員48名
主催：福岡市障がい者基幹相談支援センター

ご支援のおねがい

ニコちゃんの会は認定NPO法人です。

認定NPO法人へ寄付をすると、寄付者は税制上の優遇措置を受けられます。

「税金を収める代わりに、自分が応援したい身近な団体に直接託すことができる制度」。わたしたちは、そう考えています。

重い病気や障がいがある人がこころ豊かにくらせる社会のために、是非わたしたちにご支援ください。

※認定NPO法人として活動を続けていくためには、毎年3,000円以上のご寄付が100名以上必要となります。

皆様からのご支援と
福祉サービスの収益で
非営利活動を充実させています



ご支援の方法

寄付する

クレジットカードでのご寄付



syncable ニコちゃんの会

検索

銀行振り込みでのご寄付

福岡銀行（樋井川支店 普通口座 0259591）
NPO法人ニコちゃんの会 代表理事 森山淳子

ゆうちょ銀行（記号17470 番号30874861）
NPO法人ニコちゃんの会 理事 森山淳子

※お振込の際は氏名、住所、連絡先をメールなどで別途ご連絡ください
※団体ホームページからもご寄付いただけます。

活動に参加する

ボランティアとして参加

随時募集しております。イベントスタッフ、日々のかかわりなど、どんなことができるかを相談しながら進みたいと思いますので、本誌裏面の連絡先にご連絡ください。

職員として参加

随時募集しています。詳細はホームページをご参照ください。

上記以外のご支援についても是非ご相談ください

個人が認定・特例認定NPO法人に寄附した場合

【1】個人が認定NPO法人等に寄附をすると、所得税(国税)の計算において、寄附金控除(所得控除)又は税額控除のいずれかを選択して確定申告を行うことにより、所得税の控除を受けることができます。

①所得控除：その年中に支出した寄附金の額の合計額から2千円を控除した金額を、その年分の総所得金額から控除できます。

【算式】寄附金の額の合計額 - 2千円 = 寄附金控除(所得控除)額
※寄附金の額の合計額は、総所得金額の40%相当額が限度です。

②税額控除：その年中に支出した寄附金の額の合計額から2千円を控除した金額の40%相当額をその年分の所得税額から控除できます。

【算式】(寄附金の額の合計額 - 2千円) × 40% = 税額控除額

※寄附金の額の合計額は、総所得金額の40%相当額が限度です。

※税額控除額は所得税額の25%相当額が限度です。

【2】認定NPO法人等に対する寄附金のうち条例で指定されている寄附金や、NPO法人のうち住民の福祉の増進に寄与する寄附金として条例で個別に指定されている寄附金は、個人住民税の控除を受けることができます。

【算式】(寄附金の額の合計額 - 2千円) × 10% = 税額控除額

※寄附金の額の合計額は、総所得金額の30%相当額が限度です。

※条例で指定する寄附金の場合は、次の率により算出します。

寄附に伴う税制上の優遇措置について

内閣府「NPOホームページ」の「寄附に伴う税制上の優遇措置」を参照

法人が認定・特例認定NPO法人に寄附した場合

特別損金算入限度額の適用について法人が認定NPO法人等に寄附をすると、一般的のNPO法人に寄附した場合の一般損金算入限度額とは別に、別枠の特別損金算入限度額が設けてられており、その範囲内であれば損金の額に算入することが認められます。

①認定・特例認定NPO法人に対する寄附金に係る損金算入限度額

資本がある法人 (期末資本金の額 × 0.375% + 所得金額 × 6.25%) × 1/2

資本がない法人 所得金額 × 6.25%

②一般の寄附金に係る損金算入限度額

資本がある法人 (期末資本金の額 × 0.25% + 所得金額 × 2.5%) × 1/4

資本がない法人 所得金額 × 1.25%

※所得金額 = 所得金額 (当期純利益に税務調整をした額) + 寄附金の支出額

2021/8/1 ~ 2022/3/31

MEET with あのラボさん!! 2021



共にとりくむ
機会をつくる



出会い機会をつくる

■内容

福岡市文化芸術振興財団(以下財団)とanno lab(以下あのラボ)とニコちゃんの会の三者で、ニコちゃん家に通う3人の子どもに協力してもらい、テクノロジーを使った「実験」という名のあそびを半年間行いました。

はじめはお互いを知るところから始め、2回目以降は子どもたち一人ずつあのラボさんとかかわり、色々なセンサーなどを試したりして距離を縮めていきました。3回目の実験会では、ニコちゃん家の空間に大きな白い雲のようなものが出現し、あのラボさんが準備してくれた3つの装置をそれぞれ試してみたあとに、みんなで好きなように鳴らしてセッションしました。子どもたちは非日常を体験でき、身体はソワソワ目はキラキラ、普段寝ていることが多い子どももずっと起きて天井を眺めていました。



■実験に使った装置

- ①心拍に合わせた音が鳴って、その心拍の持ち主の色に光る装置
- ②人と人が触れ合うと音が鳴って、光が流れで真ん中の雲に集まる装置
- ③音に合わせて振動する装置

■事業の流れ

- 10月 自己紹介の回
11・12月 各自2回目実験会
1月 スタッフ検証会
3月 各自3回目実験会

コロナの感染状況を見極めつつ、また内容も手探りだったため、まだまだやりたいことを残した半年間の取り組みとなりました。それでも出逢ったからこそ、アートってなんだろう、たのしむってなんだろう、わかるってなんだろう、と考えることができたという意味では、「MEET WITH」できたのではないかと思います!

贅沢なあそびの時間でした。ありがとうございました!



担当者:福田万由未

主催:(公財)福岡市文化芸術振興財団,福岡市
協力:anno lab, 認定NPO法人ニコちゃんの会

通年

福祉サービス(訪問、通所、相談支援)



日々に

かかわる

人

を

つくる

機会

<p